宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像
〒811-35　福岡県宗像郡玄海町
電話　0940-62-1311㈹
定価　一年送料共　1000円

歴史的改元
平成元年の年頭にあたり

宗像大社
宮司　養父　守

大行天皇には一月七日午前六時三十分、崩御あらせられました。

昨年九月十九日、陛下御容体急変の報は、身の震えるような衝撃であり、直ちに全職員参列のもと、御病気御平癒の祈願祭を執り行い、また本殿、祈願殿の二ヶ所に参拝者のための、天皇陛下御病気御見舞の記帳所を設けました。同月二十六日、私は当大社の御病気御平癒祈願神礼と、記帳簿を携えて上京し、宮内庁へ奉呈申し上げると共に、皇居の宮殿西重寄記帳所に於て、氏子崇敬者の皆様を代表して御見舞の御記帳を申し上げました。

十月一日から三日間行われる秋季大祭については、多勢の方から問合せが相次ぎましたが、恒例の流鏑馬、相撲等は中止いたしましたものの「みあれ祭」につきましては　沖津宮、中津宮の御神霊を御迎えする不可欠の神事でありますので、執り行うことを決定致しました。但し、全船大漁旗の飾付けは行わず、日章旗だけを掲げ、陛下の御病気御平癒を祈っての厳粛な海上神幸となりました。

大祭後、例年行われております秋の神賑行事につきましては、献茶祭、菊花展、盆栽展以外の、剣道、柔道、空手、短歌、囲碁、詩吟等の諸行事は自粛させていただきましたが、関係各位の御理解御了承を賜りましたことを深く感謝申し上げる次第であります。

社頭での参拝者の御記帳は連日絶えることなく年末までに三万五千人の多きに達しております。

陛下は、この間、医事関係者も驚嘆する程の強靱な御気力と御体力で幾度となく大きな危機を乗り越えられ、ひたすら御快癒を願う国民の熱禱の中で越年あそばされました。

嘗てない重苦しい空気の中で迎えた新年でしたが、六十四年という史上最長の昭和の幕明けを祝う慶びと安堵の思いも束の間、七日早暁、突然崩御の悲報に接し、只々恐懼哀嘆の極みであります。

陛下は激動と試練の昭和を、国民と共に歩かれ苦楽を共にされました。未曽有の敗戦。その戦争終結は、陛下の強い御英断と権威により、世界史に例を見ない一糸乱れぬ統制の下で実現し、我が国を滅亡と分断の危機から救っていただいたのです。

身はいかになるとも
戦さとどめけり
ただたふれゆく
民をおもひて
（昭和二十年、御製）

終戦時の日本は廃墟と化し、国民は家を失い、食料難に喘ぎ、国家、民族の将来に悲観的絶望状態に陥っていましたが、こうした混乱の世相の中、陛下は御身を挺されて、国民の激励と奮起をうながされるため全国を御巡幸あそばされましたえて、君民一体となって祖国の復興に立ち上り、そして戦後四十年、世界驚異の奇蹟的発展を遂げるに至りました。

「堪え難きを堪え、忍び難きを忍び、万世の為に太平を開かんと欲す」との、陛下の無私の大御心は、戦後の日本の社会にはかり知れない統一と安定を支え、祖国再建の原動力、精神的な支柱となったのであります。更に、歴史的、文化的にもその連続性を断絶することなく、日本の文化や伝統を確実に維持発展させることができたのです。

陛下は常に国民の上に思いを馳せられ、国民の幸福と繁栄を希望されました。我が庭の宮居に祭る神々に世の平らぎを祈る朝々
（昭和五十年、御製）

この御製からも陛下の大御心と御姿が偲ばれます。

また、我が国は古くから豊葦原の瑞穂国と呼ばれ、日本人にとって主食の米は神霊のこもる信仰の源でもありますが、陛下は、毎年皇居吹上御所近くの水田で御自ら田植、稲刈りをなされ、昨年六月二日にも、御高齢、御病体の御身ながら小雨の中、早稲を御植えになりました。そして昨秋、あの重い御病床にあられながら、御自分の病いのことより、長雨による稲作の御心配をなされていた由を拝承し、粛然として只々敬仰の念を深くするばかりであります。

陛下は日本の魂であり、日本の個性であり、文化であり、そして日本人を日本人たらしめ、日本民族を日本民族たらしめ、日本国を日本国たらしめる御存在であられました。このことは古代から日本人の心に形成され、培われてきた伝統であり、単に今日的視点から論ぜられるものではありません。

陛下の御重病、崩御という重大な事態に直面し、日本人の天皇崇拝、敬慕の至情は、民族の記憶の深層から脈々と湧き出る清水のように、鮮やかによみがえりほとばしるのです。

六十三年に及ぶ長い御在位の間、数々の難局にあたられた陛下の御心労、御労苦は如何ばかりであらせられたかと拝察し、恐攫万感胸に迫るものがあります。

大行天皇御在世中の仁慈溢れる御聖徳を偲び、偉大な御聖業を讃え、謹しんで奉悼の誠を捧げ、御神霊の御平安を御祈り申し上げます。

先帝崩御の悲しみのうちにも、皇位の空白は一刻も許されず、皇太子明仁親王殿下には直ちに践祚あらせられ、皇位をお嗣ぎになられました。元号も平成と改まりました。この元号は、中国の古典「内平かに外成る」（史記）、「地平かに天成る」（書経）からとられたもので、国の内外にも天地に平和が達成されるという意味がこめられています。

新天皇、皇后両陛下には皇太子、同妃殿下のみぎり去る昭和五十八年五月十五日、当大社に御参拝あそばされました。当日、本殿に御親拝の後、神宝館に御入りになり、文化財の数々を御覧になりましたが、特に沖ノ島神宝についての御下問が多く、印象深く御覧のように拝されました。一時間二十分程の御滞在でしたが、多くの奉迎者に対し、幾度も歩をとどめられ、両殿下共々優しく手を振って お応えになられた慈み深い御姿を目のあたりに拝し、感激で胸を熱くした思いを今新たにしております。

当大社は、悠遠のいにしえ、皇祖天照大神の御神勅の随に、皇室守護、国家鎮護の大任を受けて天降りました宗像三女神をお祭りする皇室に極めて縁りの深い神社であります。この当大社鎮祭の本義を体し、新しい大御代と皇室の限りない弥栄と御安泰を祈念し、全職員一丸となって神勤にいそしむ覚悟であります。

平成元年の年頭にあたり謹んで氏子崇敬者皆様方の益々の御隆昌と御健勝を御祈り申し上げます。

昨年は戊辰の年で内外共に激動波乱のうちに過ぎた感がありましたが、当大社は皆様方の温かい御力添えにより、先ずは大過なく越年できましたことを深く感謝し厚く御礼申し上げる次第であります。

所で、既に御承知のことと存じますが、来る三月十七日から九月三日までの一七一日間、福岡市で「アジア太平洋博覧会」が開催されます。この博覧会は、古来より日本に於ける海外交流の拠点として重要な役割を果たしてきた九州、福岡を再確認すると同時に、アジア太平洋地域をはじめ、世界各国の人々との幅広い交流を進めようという国際的規模の博覧会であります。その中心となるテーマ館は会場内に新しく建設された福岡市博物館があてられ、シルクロードをはじめとする様々な「みち」に関連する国内外の貴重な文化財が展示されますが、その主要部分に当大社沖ノ島の代表的神宝類が、文化庁の特別許可を得て展示されることになりました。

沖ノ島は、我が国最大の古代祭祀遺蹟であり、この島に捧げられた祭祀神宝類十二万点は、すべて国宝、重要文化財に指定され、海の正倉院として高い評価を受けている民族の至宝でもあります。この博覧会を通して、宗像大神の高い御神威と、当大社が古代に於て大陸との対外交渉に果たしたはかり知れない大きな役割を、多くの人々に御理解いただければ幸いに存ずる次第であります。

次に当大社文書編纂刊行事業について御報告申し上げます。当社には中世以降の文書、典籍類が多量に保存伝承されており、その質と量は神社界屈指のものと いわれておりますが、先年よりその編纂事業に着手し九州大学川添昭二教授を中心に着々と進捗中であります。ただ、その編纂刊行にあたっては、学術的で且つ一般の人にも興味深く理解易いものとするため、従来あまり例を見ない画期的な史料集を目指しておりますので、特に先生方に入念、精緻な執筆の労を煩わしていましたが、漸く昨秋脱稿、現在印刷、校正の段階に入っております。多くの方々にその刊行が待望されていますが、本年秋には重要文化財宗像文書集第一巻が発刊の予定ですので、今暫らくの御猶子を御願い致します。

今年は己巳（つちのと・み）歳で、古来極めて縁起のよい年といわれております。歴史的改元の年、平成元年が、皆様方にとって、希望に満ちた幸せな良い年でありますよう心より御祈り申し上げ、年頭の御挨拶といたします。

敬神生活の綱領

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

大行天皇崩御に際し謹んで奉悼の意を表します

福岡トヨタ自動車株式会社
代表取締役　金子宜嗣
福岡市中央区渡辺通り一丁目十二番九号
電話㈹〇九二―七六一―三三三一

福岡トヨペット株式会社
取締役社長　久保田圭哉
福岡市東区東光一丁目六番十三号
電話㈹〇九二―四一一―一一二一

トヨタカローラ福岡株式会社
代表取締役社長　金子宜嗣
福岡市中央区長浜二丁目一番五号
電話㈹〇九二―七一二―七一一一

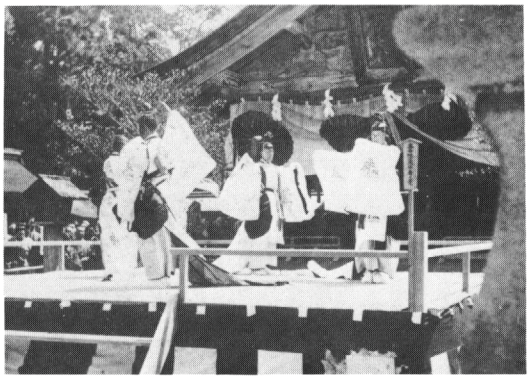
トヨタカローラ博多株式会社
代表取締役社長　久恒鎮造
福岡市博多区豊二丁目三番五十号
電話㈹〇九二―四四一―二一一一

トヨタオート福岡株式会社
取締役社長　金野宗次
福岡市博多区竹下二丁目二番三十一号
電話㈹〇九二―四一一―五五一一

トヨタオート北九州株式会社
取締役社長　卜部典明
北九州市八幡西区皇后崎町十四番六号
電話㈹〇九三―六四二―二一一一

昭和の御代を偲び

皇室と宗像大社



昭和４年４月14日　勅定記念祭で披露される主基地方風俗舞

正月の松飾りも清々しい一月七日、早朝、天皇陛下御危篤のニュースが流れた。宮司以下直ちに出社、御平癒の祈念を申し上げたが同日午前六時三十三分崩御の悲報を拝するに至った。

同日、午前十時、全職員神門前庭にて遙拝。続いて新帝践祚の奉告の祭典が執行された。同日、昭和より新たに「平成」と改元された旨、内閣官房長官より告示された。

翌一月八日、午前十時、改元奉告祭斎行。宮司以下神職は斎服着装の上祓所にて修祓、本殿に参進。早朝より大行天皇の崩御をいとおしむような春雨にも似た暖い小雨の降りしきる天候であったが、祭典開始と共に雨は上り、平成の御代を祝福するが如き祭日和となった。

かくして、新春の曙と共に平成の新時代を迎える事とはなった。宗像大社の祭祀の神髄は「天孫奉助」の御神勅の顕現にあり、国家皇室の安泰と繁栄の祈念にある。長き昭和の六十三年の歴史に於ける皇室と大社との由縁を回顧してみることにする。

大正九年、皇太子裕仁親王殿下は、皇室としては初めてヨーロッパに御渡航され給う事となり、奉告祭を執行し、更に十二月二十八日、御摂政御就任の奉告を行った。

大正十二年、五月十四日に良子女王殿下が裕仁親王殿下との御成婚に先だち、辺津宮に御参拝。当大社の斎館中庭に三女神の鎮まり坐す玄界の海原を模し、沖・中・辺三宮を配した泉水をしつらえ御覧に供したのである。

大正十三年一月二十六日、皇太子裕仁親王殿下、久邇宮良子女王殿下の御成婚奉告祭が斎行された。

大正十四年二月、秩父宮殿下御参拝、本殿右側に楠をお手植、今は大木となり初夏ともなれば青葉の薫香がただよい、今は亡き殿下の御遺徳を偲ばせる。

大正十四年十二月二十五日、大正天皇御崩御により皇太子裕仁親王殿下が践祚あそばされた。昭和に改元され、当大社では、昭和元年十二月二十七日、御即位・改元の奉告祭が斎行された。

昭和三年十一月十四日、県知事斎藤守圀、勅使として参向、辺津宮に於て、天皇即位、大嘗祭の奉告祭が斎行された。翌十五日、沖・中両宮にて祭典、陛下より三宮に奉幣を賜ったのである。大嘗祭は一世一代の御盛儀として、当大社長き昭和の歴史の中でも、最高・最大の祭儀であった。

この大嘗祭に伴い、主基斎田として早良郡脇山村が神田として選定されたが、昭和四年、大嘗祭に伴う主基地方風俗舞を格別の御配慮により当大社に保存の御下命があり、更に主基斎田に関る諸建物、黒木鳥居等が下賜された。

昭和八年、皇太子継宮明仁親王殿下御降誕奉告祭が行われた。国民等しく待ち望んだ日嗣皇子の誕生と云う事で郡民は日の丸の小旗を手に大社に参集した。

昭和二十年八月十七日。伊木豊洪、勅使として辺津宮に参向。大東亜戦争終熄奉告祭斎行。平和を希求し給う陛下の御心を畏み偲び奉った。

昭和二十四年五月、天皇陛下九州七県行幸にあたり三宮に幣帛料・神饌料を賜り、御聖徳を忝み奉り巡幸御安泰の祈願祭斎行。

昭和三十二年四月、清宮貴子内親王殿下御参拝、戦後初めての皇族の御参拝とあって氏子崇敬者挙って参集、うら若き内親王を心から奉迎申し上げた。

昭和三十三年四月。二回目の九州各県巡幸があり、陛下より幣帛料下賜。

昭和三十八年四月十日。宗像大社海洋神事奉賛会より、天皇、皇后両陛下、皇太子、同妃両殿下、並に賢所へ郡内七浦漁業協同組合員の手によって採取された早春の玄海若布を献上申し上げた。陛下には殊の外、御満悦の事とうけ給わり、今日まで欠かす事なく続けられている。

昭和四十四年十月十日。三笠宮崇仁親王殿下、辺津宮、中津宮両宮御参拝、同十一日、沖津宮に御参拝、沖ノ島学術調査団に加われ沖ノ島祭祀の重要さを身を以て御体験なされた。

絶海の孤島、玄界の荒海を渡り沖ノ島に参拝されると云う事は皇室にとっても、特に異例の事であった。

昭和四十六年十一月十三日、当大社昭和の大造営と御遷宮にあたり、香川朝男掌典、勅使として御参向、荘重、厳粛裡に奉幣の儀が行われた。御遷宮にあたり、勅使の御派遣は戦後の事例としては格別の事で宗像大社への陛下の思召しに対し、ただただ恐懼するのみであった。

昭和五十八年五月十五日、皇太子明仁親王殿下、同妃両殿下の行啓を賜った。

両殿下は謹しんで辺津宮を御拝、神宝館にて親しく沖ノ島御神宝を御覧あそばされた。

昭和六十一年七月十九日には、第二皇子礼宮親王殿下の御参拝を賜った。

斯く、昭和の大御代に於て、皇室との御由縁は極めて深いものがあるが、新たなる平成の大御代を迎えて、「天孫奉助」の御神勅顕現のため、神明奉仕に一層の精進を期す次第である。

大行天皇崩御に際し
謹んで奉悼の意を表します

宗像大社責任役員会
宗像大社氏子総代会
宗像大社沖中両宮奉賛会

宗像大社責任役員会
代表役員　養父　守
責任役員　出光　昭介
〃　吉本　弘次
〃　永倉　三郎
〃　河野　幸人
〃　山本　三吾
〃　占部真太郎
〃　占部　文男
〃　古賀　芳人
〃　宇都宮　淳

宗像大社氏子総代会
会長　河野　幸人
副会長　倉元　清彦
〃　占部　文男
〃　出光　太蔵
〃　永島　義彦
監事　楠田　繁男
〃　黒石　満
〃　梶野　覚治
〃　花田　謙吾

宗像大社沖中両宮奉賛会
会長　河野　幸人
副会長　沖西　彰
〃　宮本登志丸

大行天皇崩御に際し
謹んで奉悼の意を表します

宗像大社社務所

宮司　養父　守
権宮司　宇都宮　淳
禰宜　宗像　清文
〃　太田　累恵
権禰宜　升谷　勝良
〃　山田　幸雄
〃　神島　定
〃　大野　宗康
〃　石橋　清寿
〃　堤　宏
〃　東　弘
〃　高向　正秀
〃　門司　成人
〃　玉木　正之
〃　渡辺　秀丸
〃　杉山　安彦
〃　藤川　耕一
出仕　伊藤　佳和
巫女　樋口寿美江
〃　福崎かつえ
〃　永田　里美
〃　水上　久美
〃　木原麻由子
〃　井土　博江
〃　中野　京恵
〃　村山由美子
〃　野間　千矢
〃　石松　摂子
〃　荻野　和美
〃　入江　累恵
〃　白石　泰代
〃　本田　千佳
雇員　大島　京子
〃　渡邊　和夫
備員　大西　長生
〃　吉武　隆則
〃　花田　清巳
〃　嶺　千鶴子
〃　広橋　康子
〃　井上美千代
〃　原　カズ子
〃　占部チヨカ
学芸員　松本　肇
嘱託　堺　豊三郎
〃　椛山　一郎
〃　藤川　宜重
〃　石井　忠
〃　河窪奈津子
警備　橘　一幸
〃　松崎孫四郎
講師　中村　吾郎
〃　小方　百枝

大行天皇崩御に際し謹んで奉悼の意を表します

トヨタビスタ福岡株式会社
取締役社長　喜多村　禎　勇
福岡市中央区薬院一丁目五番八号
電話㈹〇九二―七一四―六六六一

福岡日産自動車株式会社
取締役社長　有吉　龍　健
福岡市博多区千代一丁目二十一番三十七号
電話㈹〇九二―六三三―五五一三

日産プリンス福岡販売株式会社
代表取締役　永田　千秋
福岡市中央区平尾三丁目五番三号
電話㈹〇九二―五三一―九五六一

日産ディーゼル福岡販売株式会社
取締役社長　中堂　廣
福岡市東区多の津一丁目三十九番四号
電話㈹〇九二―六二九―一八三一

日産チェリー福岡販売株式会社
取締役社長　川本　耕三
福岡市博多区半道橋一丁目十番十号
電話㈹〇九二―四七一―一一二三

九州スズキ販売株式会社
代表取締役　内野　庄八
福岡市博多区呉服町九番三十二号
電話㈹〇九二―二七一―五三五五

己巳歳の正月
粛粛と明けた初春に
平穏無事を祈る人々

「ドーン、ドーン、ドーン」。皇紀二千六百四十九年己巳歳元旦午前〇時、小雨降る漆黒のしじまを破り、昭和六十四年の黎明を告げる大太鼓の音が境内に響きわたる中、神門の大扉が玄海町消防団品川勝昭団長以下役職により、左右に開扉された。開門と同時に、待ちかねた参拝者が陸続と連なり、瞬時に本殿前は人並で埋め尽くされた。

昭和六十四年の元旦は、大晦日夜半からの生憎の雨模様で迎え、初日の出も拝することが出来ない状況であったが、新しい年の交通安全、家内安全、延命招福等、心願成就を願う初詣での参拝者は途切れることなく続いた。夜明け前には雨も止み、午前十時過ぎには雲間より太陽も輝き始め、新年の幕明けにふさわしい正月日和となった。

当大社祈願殿前の大駐車場（七〇〇台収容）、又神宝館隣接の第二駐車場（二〇〇台）、第二・第三宮隣接の第三駐車場（一〇〇台）の三駐車場は、午前十一時頃には満車状態となった。午後からは陽光も一段と輝きを増し気温も上昇、境内は参拝後も新年の元旦をゆっくりと楽しむ家族連れ、若人等で賑い、周辺の道路も当大社への参拝車輌が連なり、例年にも増して混雑した元旦風景となった。

正月二日・三日は透きとおった青空が広がり、陽光はさんさんと降り注ぎ、風もなく温暖な天候となった。この好天に誘われるかのように、参拝者が早朝より続いた。午前九時過ぎには、各駐車場も満車状態となり、当大社への参拝車輌で、県道69号線は上下線とも終日四～五キロの渋滞となった。

昭和六十四年正月三ヶ日の参拝は、元日＝参拝者三十万人・車輌六万台、二日＝二十万人・四万台、三日＝十五万人・三万台、計六十五万人・十三万台を数えた。

本年の社頭も、車輌のお祓いを受ける人、神前で一心に祈る人、神札・お守・縁起物の干支守・破魔矢等を受ける人と、例年同様であったが、昨年迄との大きな違いは、晴着姿の参拝者がほとんど見られず、〆飾を装着した車輌も極端に少なかったことである。これは、昨年九月十九日、畏くも陛下が御不例にわたらせられ、国民が挙って陛下の御病気平癒を祈願され、各種行事・活動等も自粛してきたことが、新年を迎えても引き継がれた現れであろう。又恒例の新年挨拶である「明けましてお目出度うございます」の言葉も少なく、粛粛とした正月風景であった。

当大社では、正月初詣で参拝者への社頭受入体制として、恒例の干支「一刀彫」二千体、「新春福みくじ」二万体を始め、破魔矢・鏑矢・福迎え等の縁起守、車輌用の「交通安全守」、身体用の「災難消除・延命招福守」等数多くの御守・神札を準備し、新年を迎えたが、昨年から授与している「新春福みくじ」は参拝者に好評で、当大社では正月三ヶ日間に、参拝者の方々へ授与すべく企画していたものの、二日午後四時頃には終了となった。

このように、本年も正月三ヶ日の社頭は、例年にも増して多数の参拝者で溢れたが、しかし静かな正月であった。

古式祭・鎮火祭斎行

十二月十五日、午前六時寒風、まだ夜の明けきらぬ中、当大社古式祭が古儀に則り厳粛に斎行された。

この古式祭は、地元氏子の奉仕による年間最後の収穫感謝祭のことであり、一年中の勤労を感謝し、その年の収穫物を捧げ、神社の火でたいた一つの釜の食物を氏子の方々が神様と共にいただく神事である。

伝統は八百余年を誇り、九年母、菱餅で作った「お果子」、江口の浜より上る海草と大豆で和えた「ゲバサモ」という特別の神饌をお供えし、十二月十五日の未明に「お座」を催すのがしきたりとなっている。

この「お座」は、現在飛松、吹浦、片脇、本村、宿ノ谷、山下、上殿、福田の八地区が年々交替で奉仕されているが、今回は宿ノ谷地区の氏子により執り行われた。

定刻、ほの暗い静寂な境内に大太鼓が鳴り響き、養父宮司以下神職、地元総代、田島区長、江口区・当番代表が拝殿へと参進、宮司祝詞奉上、五穀豊譲を感謝した。続いて古歌

千早振第一宮（第二宮・第三宮）ノ木綿祥
掛ケテノ後ハ楽シカリケリ

を奏唱、玉串拝礼を行って厳粛に執り納められた。

祭典終了後の午前六時半より、清明殿にて「神人相嘗」のお座が開かれ、御膳には、椀に高く盛られ忌穂を刺した新米の御飯、味噌汁、にしめ、菱餅、ゲバサモ、栗煮等が並び、五番座迄万端滞りなく行われた。

御座の次第は、

一、一鼓　二、御祓
三、幣引き　四、神酒拝戴
五、打込み　六、くじ引き
七、打込み　八、汁
九、供物　十、一鼓

と進み、くじは今年より当大社翁面が一等として復活する等、神人和楽の中五穀豊穣を感謝し、延命招福を願った。

又、同日午前十時より鎮火祭を斎行。

この祭典は「ほしずめの祭」として古来卜部等が火を鑽って祭りを行ったことに由来する。

当大社に於ても拝殿にて養父宮司が火打石により忌火を鑽って点火し、ひさごでもって水を振り注ぎ、赤土をかけ、その上より川菜を覆う鎮火の儀式が行われた。

祭典には、宗像地区市町村長、宗像警察署長、宗像地区消防本部々長、消防団長等関係者多数が参列し、一年間の防火を祈り、祭典は滞りなく終了した。

社務日誌抄

十二月一日　月次祭
太宰府天満宮禰宜木村
當馬氏参拝
横綱「大乃国」・宗像ロータリークラブ古賀
兼吉氏外三名参拝
職員会議
十二月五日　宗像警察署次長久門正治氏・外勤課長山中英徳氏外一名来社
心字池清掃宗像養魚組合・㈱大竹組奉仕
十二月六日　アジア太平洋博覧会事務局明石課長
神宝出陳承諾書受領の為来社
十二月八日　正月祭関係四者会談
愛知県陶磁資料館神宝返却の為来社
十二月十五日　古式祭・鎮火祭
玄洋福岡ライオンズクラブ境内清掃奉仕
十二月十九日　松尾神社祭
北筑酒造杜氏組合員参列
十二月二十日　津屋崎町町長選挙立候補者古部真太郎氏必勝祈願祭
出光バルクターミナル㈱山田氏社殿造営の件にて来社
宗像大社氏子協力会総会於斎館
十二月二十二日　駐福岡大韓民国総領事館領事金安永氏・大日本水産会日韓漁業委員会事務局長山根信夫氏来社
十二月二十四日　玄海町消防団第一分団正月祭警備打ち合せ会議
東海大学第五高等学校サッカー部全国大会必勝祈願祭
職員会議
十二月二十七日　苫小牧東部石油備蓄㈱藤野氏参拝
十二月二十九日　地元総代・協力会正月祭諸準備奉仕
十二月三十一日　大祓式・除夜祭

大行天皇崩御に際し謹んで奉悼の意を表します

福岡ダイハツ販売株式会社
代表取締役社長　内山　学
福岡市博多区東比恵四丁目十番十一号
電話㈹〇九二―四一一―一三三一

福岡日野自動車株式会社
取締役社長　樗木雅春
福岡市東区箱崎ふ頭二丁目五番七号
電話㈹〇九二―六四一―一一七三

九州三菱ふそう自動車販売株式会社
取締役社長　宮﨑慶一
福岡市東区箱崎ふ頭五丁目七番二号
電話㈹〇九二―六四一―八一八一

社団法人日本自動車連盟九州本部
本部長　植竹陽介
福岡市中央区六本松二丁目十二番十九号（第百生命ビル内）
電話㈹〇九二―七六一―二七六一

福岡国際カントリークラブ
松尚開発株式会社
福岡県宗像市大字朝町
電話㈹〇九四〇―三二―三五四四

西日本開発株式会社
玄海ゴルフクラブ
福岡県宗像郡玄海町
電話㈹〇九四〇―六二―一二三三

宗像大社歌会 俳句作品集（三〇）

冬の虹まもなく細き雨来る　津屋崎　西住喜三郎

夕風の落葉の音の転がりぬ　福　間　森　清

任せとけとリレーの列にVサイン　福　間　広渡一寿軒

枯れつくすもの皆寡黙坐禅堂　福岡中央　力丸　玄風

霜白や身にしむ老に髪の白　田　熊　力丸　一郎

精一ぱい吾も生きなん枯尾花　田　熊　安部　ゆき

初生りの橙めでて床飾り　日の里　花田いつえ

実とべらの弾けて燃える浜小春　藤沢市　井上　玄洋

第三三〇回　宗像大社歌会詠草

中村吾郎選

毎月末日〆切

年金の生計におもき松茸を買ひきて妻の満ちたりし顔　八幡西　山田　耕夕

（評）年金の生計には重いと思う作者の気持が、満足げな妻女の顔に救われている。読者も救われる。

酒造る街をあるけば朝靄に米を蒸す香り清しく流る　大　島　目原　節子

（評）酒造の米を蒸す香が朝靄の中に漂う。それだけで愉しい一首となった。「清しく」は一考され度い。

玄海の海にかたむく老松の下寂かにて蓬崩えゐる　自由ヶ丘　後藤　君代

（評）句毎に神経がゆき届いて無駄がない。老松の下に萌える蓬は芳香を放つ。「玄海」は「玄界」の誤。

老の身の書き終るやと危惧しつつ三年連用日記を求む　田　熊　鷲頭かつ代

桑摘みに田植ゑに母の着きゐたる絣の小切を姉に貰ひぬ　東　郷　藤崎　辰子

陽の昇る位置移りつつ秋たけて厨の窓にさす日和らぐ　八幡西　山田アヤ子

正装の僧侶の讃経荘重なり住職継承式典に列す　深　田　中野　節子

チューリップの球根植え込む吾の手に陽光を吸ひし土暖かし　中　間　古賀アツ子

木守柿つつき終りしひよどりの去りたる枝はひそと静もる　池　田　小田しめの

暑さにも咲きつぎて来し浜木綿の葉も素枯れをり浜風の吹く　八幡西　川崎　ウラ

窓に見ゆ観音堂に小雨降り百度参りの女は濡れつつ　武　丸　中村さつき

御病篤き日々なり只一日降りたる雨に玉葱植ゆる　原　町　八波　五月

動物園の象はわれより美食すとテレビを見つつひとり夕餉す　香　椎　桜井　ツ子

素枯れゆく晩秋の野の一叢に櫨の赤きが夕陽に映ゆる　宮　田　片山　朔子

夕映ゆる塩湖のほとり移動する群れし羊の鈴の音遠ぞく　小倉北　松木　政子

実を街へ小鳥の飛べり山の辺に紅々と照る万両のあり　池　田　小田　イセ

十三夜の月かげりなし葱畑に忘れて来たる鍬に照りゐむ　吉　留　白木うめの

天皇に輸血五〇〇と告げられる朝よりの雨時にはげしく　福　間　清原　絹代

太宰府でうけし短歌の賞状を子は額にして飾りくれたり　田　熊　力丸　一郎

紅葉濃き菊池渓谷水澄みて頭に枯葉の林出で来る　福　間　二宮　末子

転勤に息子の荷物片付けぬ空地にピラカン赤く残れり　八幡東　江口　妙子

大空にはばたく鳥の影を見ていたつき忘れ老い身に夢湧く　南　郷　片山　碧村

ポリ箱に植えし早苗が伸び立ちて細き稲穂を終につけたり　戸　畑　田中ハツセ

健康のためにと亡夫が引きたりし長押の弓も古くなりたり　武　丸　立石ろせ乃

今朝も又小鳥の声にふと目覚め起出でみしも雨戸開け得ず　八幡東　永田久美子

宗像大社一ケ年祭事表

一月一日	歳旦祭
一月二日	新年祭
一月三日	元始祭
一月十三日	献米奉告祭
一月十五日	成人祭
二月三日	節分祭
二月十一日	建国祭
三月十九日	松尾神社祭
三月二十一日	皇霊殿遙拝式
四月一・二日	春季大祭
四月二日	宗像護国神社祭
四月二十日	沖・中両宮春季大祭
五月五日	五月祭・浜宮祭
五月二十七日	沖津宮現地大祭
七月十五日	祇園祭
七月三十一日	大祓式並夏越祭
八月七日	中津宮七夕祭
八月十五日	護国神社戦没者追悼祭
九月一日	千灯明
九月二十三日	風鎮祭
十月一日	皇霊殿遙拝式
十月一～三日	海上神幸「みあれ祭」
十月三日	秋季大祭「田島放生会」
十月十四日	宗像護国神社祭
十月十七日	沖・中両宮秋季大祭
十一月三日	表千家々元献茶祭
十一月十五日	明治祭
十一月二十三日	七五三祭
十二月十五日	新嘗祭
十二月十九日	古式祭並鎮火祭
十二月二十三日	松尾神社祭
十二月三十一日	天長祭
毎月一十五日	大祓式並除夜祭
	月次祭

建国祭ご案内

年号も平成と改まり、新しい御代となりました。この平成元年という歴史的にも意義深い年に、国家紀元の偉業を称える当大社建国祭を左記の如く斎行致しますので御参拝下さいますよう御案内申し上げます。

記

一、日時　平成元年二月十一日　午前十一時

一、祭場　当大社本殿

平成元年一月吉日

宗像大社社務所

各位

御礼

当大社恒例の大祓式斎行に当りましては、宗像市・郡内氏子各位並びに全国崇敬者の皆様より多数の人形をお寄せ戴き、お蔭を以ちまして、祭典は天候にも恵まれ滞りなく、盛大裡に斎行致すことが出来ました。ここに誌上を以ちまして謹んで御礼申し上げます。

平成元年一月吉日

宗像大社
宮司　養父　守

崇敬者各位

献米袋配布並に取纏め御礼

昭和六十三年度、宗像大社献米奉告祭斎行にあたり、市・郡氏子各位への献米袋配布並に取り纏めにつきましては年末年始お忙しい中、御協賛を賜り厚く御礼申し上げます。

祭典は厳粛に斎行致すことが出来ました。

ここに誌上をもちまして謹んで御礼申し上げます。

平成元年一月吉日

宗像大社
宮司　養父　守

宗像大社氏子会
会長　河野　幸人

宗像大社氏子会評議員
〃　〃　総代　各位

大行天皇崩御に際し謹んで奉悼の意を表します

あけぼの荘　電話〇九四〇―六二―二三六六番

魚屋旅館　電話〇九四〇―六二―二二二三番

みなと荘　電話〇九四〇―六二―二三五五番

玄海旅館　電話〇九四〇―六二―〇〇〇一番

高嘉旅館　電話〇九四〇―六二―二二二一番

望海荘　電話〇九四〇―六二―一八一一番

ニューチ千鳥荘　電話〇九四〇―六二―〇〇六八番

大島屋旅館　電話〇九四〇―六二―〇五五五番

松風荘　電話〇九四〇―六二―〇一二〇番

泉館旅館　電話〇九四〇―六二―〇〇三五番

玄洋荘　電話〇九四〇―六二―二二七二番

川口屋旅館　電話〇九四〇―六二―〇〇四八番

勝浦荘　電話〇九四〇―六二―二四七一番

はま荘　電話〇九四〇―六二―〇五〇〇番